

がするもの”になってしまう。このような社会の意識は、子どものジェンダー意識の形成にも大きな影響を与えます」と、鋭い考察です。

全員が発言し、会場に一体感

ジャンクリストフさんは、全員の意見を丁寧に聴く中で、参加者をセミナーに引き込んでいきました。参加者が発表した、学校教育や日常生活の中で体験したジェンダーには次のようなものがありました。

- ・委員長は男、副委員長は女だった
- ・技術家庭科の授業で、技術は男、家庭科は女だった
- ・私は女子中・高校だったので男女差を感じなかったが、結婚してから実感した
- ・スウェーデンでホームステイしたお宅では、手の空いている夫が当たり前のようにテーブルセッティングをしていた。我が家では、夫は「お茶」「ごはん」と、座って待っている

会場には様々な意見が飛び交いましたが、「区別は差別なんだ。ジェンダーの意識はもうやめよう」という雰囲気が満ちていたように感じました。

社会システムを変えないとダメ!

子どもの教育環境に根深く存在するジェンダー・バイアス(ジェンダーに基づく偏見、偏向)を憂慮するジャンクリストフさんは、日本の現状を正確に把握しており、その解決策についても語ってくれました。

「ジェンダー・フリーは、学校や家庭だけでなく、職場でもやってほしい。今、経済危機にある日本では、女性が経済的な役割を与えられるべきだと思います。男性だけでなく、女性自身のジェンダー意識を変えるためにも、労働の問題は避けて通れません。少子化の止まらない日本で、女性が経済活動を担いすぎて良いのだろうかと思われるかもしれませんが、育児負担が女性だけに偏らず、かえってその方が良いと思うのです。もちろん、女性が働きやすい環境や経済システムを整えることも必要です。日本では、育児休暇への所得保障が低額なので取得率が低く、復職も難しい状況のようです。男性と女性が仕事も家庭生活も一緒に担えるよう、社会システムを変えなければなりません。そのためには、政治の役割が重要です」

日本の学校教育を切り口とした今回のセミナーからは、私たちの意識改革はもちろん、社会システムの変革の必要性についても考えさせられました。



男女共同参画モデル校が誕生

「丸亀市男女共同参画プラン」に掲載されている推進事業の一つに、男女共同参画モデル校の設置があります。「いつ設置されるのだろう」と思っていたら、7月に、本島中学校、城南小学校、城坤幼稚園が指定されたとのこと。各校は、平成15年度末までの間、児童や生徒、教職員、保護者の意識や実践力の向上に向けて、取り組みを進めていくそうです。早速、各校にインタビューに行ってきました。

城坤幼稚園

- 母親だけでなく、父親や周りの大人に子育ての楽しさを分かってもらえるよう、家族参観日の内容を工夫したい。伝承遊びを取り入れたり、地域の行事に参加したりする中で、いろんな人を知ってほしい。
- 今は男性の教諭はいないが、実習で来ていたお兄さんは人気者。

城南小学校

- モデル校の指定に合わせて校内のプロジェクトチームを立ち上げたので、そこで計画を立て、実践していきたい。
- 児童や教師のジェンダー意識についての実態調査が必要ではないか。
- 学校だけでなく、家庭や地域とも連携を取りながらジェンダー・フリー教育を進めていかなければならない。

本島中学校

- できること、変だと思ふことを挙げ、小さなことからでも改善していきたい。
- 3年生の家庭科の授業では、男女に関係なく、保育実習をしたり調理実習をしたりしている。
- 「しお風タイム」といって、総合的な学習の時間に人権意識の向上に努めている。男女平等についても、もっと考えていきたい。

「かがわ男女共同参画推進員」に聞く

今年度、香川県は県下に84人の「かがわ男女共同参画推進員」(以下、推進員)を設置しました。市内からも、石川みどりさん(主婦)、木戸みどりさん(初代まるがめ婆娑羅大使)、竹中努さん(丸亀商工会議所青年部理事)の3人が委嘱されました。

そこで、9月19日に3人の方にお集まりいただき、推進員のみなさんがイメージする男女共同参画社会や、今後の活動について伺いました。

推進員の役割

ゆめネットワーク 推進員はどのような目的で設置されたのですか。

石川 推進員は、県や市の男女共同参画施策に協力して、地域で普及・啓発などに積極的に取り組み、「香川県男女共同参画推進条例」が目指す男女共同参画社会の形成と豊かで活力のある地域社会を実現させるために設けられました。

ゆめネットワーク 任期はいつからいつまでですか。
木戸 今年の6月に委嘱され、平成16年3月末までの約2年間です。

これからの活動が目指すもの

ゆめネットワーク みなさんは推進員として既に活動を始めていますが、どのような男女共同参画社会をイメージしていますか。

石川 次第に法律や行動計画などの整備が進んできたとはいえ、かえって女性の負担が増しているように思います。つまり、「男は仕事、女は家庭」から「男は仕事だけ、女は家庭も仕事も」になったのではないのでしょうか。家庭の中のジェンダー・フリーを目指します。

竹中 企業人の視点から、労働の問題に関心があります。今は「男でないに代わる仕事」と「女でないに代わる仕事」があると思われていますが、できるだけその垣根をなくしたいと考えています。また、女性が外に出にくいという状況もありますが、改善するためには、男性だけでなく女性にも意識改革が必要なのではないかと思っています。

木戸 仕事で訪れたモンゴルでは、歯科医の8~9割

が女性です。同じく医師の女性割合も高く、日本では「医師=男性、看護師=女性」という感覚なのに、そうでない国もあるんだ、と意識が変わりました。日本の社会を外から見直してみるとよく分かるものです。私は自然体での男女共同参画ができればいいと考えています。

ゆめネットワーク 3人それぞれの立場からのお話を聞いて、私たちが気づかされたことがありました。お互いに情報交換しながら、男女共同参画社会の実現を目指していきたいものです。

木戸 推進員だけではどうしても限界がありますので、ご一緒できればいいですね。

ゆめネットワーク 今後、何か活動予定はありますか。

竹中 10月の末に「フレッシュ丸亀秋まつり」が開催されます。市民の方が大勢来られるでしょうから、みなさんに「ジェンダー・チェック」をしてもらう予定です。

ゆめネットワーク 「ジェンダー」という言葉すらまだまだ知られていないと思いますので、啓発にもなりそうですね。これからも、推進員のみなさんとゆめネットワークが協力すれば活動の輪が広がります。

ゆめの部屋活動中

この部屋に登録している各グループが、それぞれのテーマで例会やセミナーを開催しました。今後も随時開催(4頁参照)しますので、みなさんものぞいてみてください。

- 7/6** 丸亀市まちづくり女性会議OG会
例会「女たちも考える、有事法制!」
- 7/13** まちづくりグループまるみな
フリートーク「みんなで話そう!学校のこと」
- 9/7** ウィングス
グローバルセミナー
「もっと韓国のことを知ろう」